

「耐力」と「自立」

桂川小学校が挑戦する 子どもたちが身に付けるべき「学力」



学校目標

自立 耐力

Interview



桂川小学校
辻 秀志 校長
Tsuji Hideshi

「学力」が 意味するもの

突然ですが、「学力」とは何でしょうか。広辞苑によれば、「①学問の力量。がくりき。②学習によって得られた能力。学業成績として表わされる能力」とあります（岩波書店『広辞苑』第四版）。
学校教育法の第三十条第二項にはこうあります。

〔前略〕基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う（後略）。
一般的にこの項目の説明が小学校における「学力」と位置付けられています。

つまり学力とは、算数や国語などの目に見えて判断できるものだけではなく、子どもたちがこれから社会で生きていく上で必要となる能力を指す言葉でもあるのです。
では、桂川小学校が取り組んでいる、子どもたちが身に付けるべき「学力」とはなんでしょうか。
辻秀志桂川小学校校長にお話を伺いながら、桂川小学校の1日取材させていただきました。

毎日歩いての登下校 その先にある「耐力」

桂川小学校が目指す「学力」。1つ目は「耐力」です。耐力とは、他人の迷惑になることはしないよう、自分を抑え、耐える力のことと言います。

午前8時。朝の登校のピークです。子どもたちが元気な声で「おはようございます」と言いながら、正門前に登校していきます。低学年も高学年も、カメラを抱えた見知らぬ私に対して、快くあいさつをしてくれます。

同じ時間帯の校門から少し離れた空き地。次々と停まる車の中から降りてくる子どもたちは、正門を知らず裏手から昇降口へと入っていきます。

「それぞれ事情もあるでしょうが」と、辻校長は切り出します。「耐力をつけるための第一歩は、きちんと歩いて登下校することです。歩くことで身体が鍛えられるのは言うまでもありませんが、晴れの日、雨の日、暑い日、寒い日など、日々変わる環境の中で、それに耐えながら進むことは、耐力を付けるとともに、安全管理能力を身に付ける絶好の機会でもあります。